

地域計画

策定年月日	令和6年3月29日
更新年月日	(第 回)
目標年度	令和15年度
市町村名 (市町村コード)	いわき市 204
地域名 (地域内農業集落名)	榊小屋地区 (榊小屋)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	29.6 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	22.7 ha
② 田の面積	20.1 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	2.6 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	6.0 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	0.0 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

・アンケート調査の結果、自ら耕作や農作業の委託等を希望する面積が50.7%を占めるものの、経営の委託や所有権の移転を希望する面積が20.3%を占めることから、新たな農地の受け手の確保が必要。
 ・耕作を継続していきたいが、耕作条件の悪い農地や法面や水路・農道等の管理が過重な負担となっている。
 ・鳥獣被害が深刻であり、耕作意欲が減退している。
 ・農業者の高齢化と担い手不足が課題である。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

・基盤整備等により耕作条件の改善が必要。
 ・農産物の高付加価値化により所得の向上を図る。
 ・いわきワイナリーで使用するぶどう(垣根仕立ての長梢剪定)及び丹沢そば福島いわきのそばを主要作物とする。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・担い手(認定農業者、いわきワイナリー、丹沢そば福島いわき)の農作業に支障がない範囲で農業を担う者により農地利用を進める。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	31.9	%	将来の目標とする集積率
			60.0 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
・高齢化及び担い手が不足していることから、基盤整備事業への取組みを検討し、担い手を確保しつつ集団化(集約化)を目指す。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
・高齢化及び担い手が不足していることから、地域で協力しながら耕作できない農地を出さないようにする。
(2)農地中間管理機構の活用方法
・農地中間管理機構の活用は現時点では考えていないが、必要に応じて検討する。
(3)基盤整備事業への取組
・基盤整備事業については、被相続農地が未整理であり、条件を満たすための課題が山積していることから、基盤整備事業には取り組まない。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
・現在のいわきワイナリーのブドウ及び丹沢そば福島いわきのそば育成を継続し、必要に応じていわき農林事務所の助言を受けながら推奨していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
・現在活用している多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金により、草刈りや水路の土砂上げ等を委託している。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

- ①地域による鳥獣被害対策として電気柵を設置して対策していく。
- ⑤いわきワイナリーがぶどうを育てているため、必要に応じて協力する。
- ⑦水路の維持管理や竹藪の竹切、県道の草刈りなど継続していく。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	A氏	水稻、野菜	5.3 ha	ha	水稻、野菜	5.3 ha	ha	A氏	
認農	B氏	水稻	4.1 ha	ha	水稻	4.1 ha	ha	氏	
利用者	C氏	水稻、野菜	3.1 ha	ha	水稻、野菜	3.1 ha	ha	C氏	
利用者	D氏	水稻、野菜	2.6 ha	ha	水稻、野菜	2.6 ha	ha	D氏	
利用者	E氏	水稻、野菜	2.4 ha	ha	水稻、野菜	2.4 ha	ha	E氏	
利用者	F氏	水稻	1.9 ha	ha	水稻、野菜	1.9 ha	ha	F氏	
利用者	G氏	水稻、野菜	1.7 ha	ha	水稻、野菜	1.7 ha	ha	G氏	
利用者	H氏	水稻、野菜	1.6 ha	ha	水稻、野菜	1.6 ha	ha	H氏	
利用者	I氏	水稻、野菜	1.5 ha	ha	水稻、野菜	1.5 ha	ha	I氏	
利用者	J氏	野菜	1.0 ha	ha	野菜	1.0 ha	ha	J氏	
認農	K法人	ソバ	1.0 ha	ha	ソバ	1.0 ha	ha	K法人	
利用者	L氏	水稻、野菜	0.8 ha	ha	水稻、野菜	0.8 ha	ha	L氏	
利用者	M氏	水稻	0.7 ha	ha	水稻、野菜	0.7 ha	ha	M氏	
利用者	N氏	水稻、野菜	0.6 ha	ha	水稻、野菜	0.6 ha	ha	N氏	
利用者	O氏	水稻、野菜	0.5 ha	ha	水稻、野菜	0.5 ha	ha	O氏	
利用者	P氏	水稻、野菜	0.3 ha	ha	水稻、野菜	0.3 ha	ha	P氏	
計	16経営体		28.9 ha	0 ha		28.9 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
—	—	—	—

6 目標地図(別添のとおり)

目標地図(榊小屋地区)

耕作者

- G氏
- E氏
- A氏
- D氏
- N氏
- C氏
- I氏
- L氏
- O氏
- B氏
- H氏
- F氏
- P氏
- M氏
- K法人
- J氏

